

# クワシロカイガラムシ（第1世代幼虫）の 防除対策について

令和3年4月30日  
埼玉県茶業研究所

本年はクワシロカイガラムシ（以下「クワシロ」）のふ化幼虫の発生ピークは平年より早い（入間市根岸）の見込みで、狭山市はかなり早い見込みです。しかし、クワシロの発生は少ないと考えられます。また、一番茶摘採期と重なるため、注意しましょう。下記の情報を参考に、適切な時期に防除対策を実施しましょう。

なお、本年は新型コロナ感染拡大防止のため、茶業研究所にて実施していた防除適期判定会は中止にいたします。なお、判断が難しい場合はメール（難しい場合は電話、FAXで。文末に表記）でご相談ください。

## 1 有効積算温度による推定

各地点の茶株内温度と青梅アメダスのデータから推定したクワシロの防除時期は以下のとおりです。

調査地点	防除適期 ( )内は幼虫ふ化の推定ピーク
狭山市（笹井）	5月5日～8日 (5月4日)
入間市（野田） 所沢市（林）	5月11日～16日 (5月10～12日)
入間市（茶研） 入間市（上藤沢） 入間市（木蓮寺） 所沢市（東狭山ヶ丘）	5月15日～19日 (5月14～15日)
青梅アメダスデータ	5月16日～5月19日 (5月15日)

## 2 防除時期のポイント

薬剤による防除適期はふ化幼虫の推定ピークの翌日から4日後程度が目安です。この時期を過ぎるとしだいに防除効果が低下していきます。早めの対策をお願いします。とくに本年は防除時期が一番茶の摘採や製茶の時期と重なります。防除時期はあくまでも目安です。発生が多い場合は、防除適期から数日遅れても防除を実施しましょう。発生が少なく、一番茶摘採により防除対策が実施できなかつたり、周辺ほ場がまだ摘採されておらず薬剤防除が困難な場合は、摘採後、米ぬか処理を実施するか、次世代（7月）の幼虫発生時期の対策を考えましょう。

## 3 防除対策のポイント

(1) 3月にプルートMCを散布したほ場 この時期は、防除対策の必要はありません。

(2) プルートMCを散布していないほ場

- ・近隣の茶園で摘採が終わっていない場合は、摘採後に防除するようにしましょう。
- ・天敵に影響の少ないアプロードエースフロアブルまたはコルト顆粒水和剤を農薬使用基準に従って散布します。
- ・散布に当たっては茶株内の枝幹に十分に薬液がかかるよう丁寧に実施してください。
- ・適期より対策が遅れた場合は、薬剤散布直後、または単独で米ぬか（40kg/10a 相当量）を茶株の枝幹に付着するように処理するとクワシロ抑制効果があります。

(3) 更新処理

この時期に深刈りや台切り更新を予定している方は、上記防除適期から1週間以上経過したのちに実施するようにして、幼虫や卵を周辺の茶園に飛散させたり、機械に付着した虫を他のほ場に持ちこんだりしないよう注意しましょう。

農薬を使用する際には、必ず使用農薬のラベルを確認しましょう
-------------------------------

連絡先：埼玉県茶業研究所

農業革新支援担当 小俣

TEL : 04-2936-1351

FAX : 04-2936-2891

E-mail : omata.ryosuke@pref.saitama.lg.jp